

2026-2027

■本日のロータリーソング
それでこそロータリー

Rotary

WEEKLY BULLETIN

7月30日(木) 第4号
第3167回 例会

札幌東ロータリークラブ TODAY'S PROGRAM

クラブ納涼例会 親睦活動委員会



就任挨拶(3) 各委員長

野崎正隆 国際奉仕委員長

本年度、国際奉仕委員会委員長を拝命しました野崎です。理事役員を務めさせていただくのは、6年前(犬嶋会長・岡澤幹事年度)に会計を務めたとき以来になります。1年間どうぞ宜しくお願い致します。

国際奉仕委員会は、青少年交換プログラムの円滑な遂行を主な活動としている委員会であり、ロータリー第2510地区ではその名のとおり「青少年交換委員会」が同プログラムの運営を担っています。私は、2016年から地区青少年交換委員会の委員を務めており、ある程度この青少年交換プログラムに通じているため、その経験を活かしてほしいという趣旨で委員長の打診があったのではないかと推測しています。

まずは、青少年交換プログラムについてご説明いたします。15歳から19歳までの高校生を対象とした国際的な交換留学プログラムであり、世界100カ国以上の国と地域で実施されていて、現地のホストファミリーに滞在しながら高校に通って異文化理解と世界平和を深める親善大使としての役割を果たしていただくというプログラムになります。2510地区では多数の国に学生を派遣していますが、近年ではアメリカ、カナダ、オーストラリア、フィンランド、ベトナムからの派遣学生を受け入れ、同様に派遣しています。プログラムの種類は2種類ありまして、長期の交換として、原則1年間2～3カ月ごとに3～4件のホストファミリーを移動しながら現地の学校へ通うという方法と、短期の交換として、夏休みや冬休みを利用して、数日から数週間滞在する方法があります。主に派遣されているのは長期交換かと思えます。最大の特徴は学費と滞在費はロータリーが負担します。通常、子供を留学に出す場合、内容によっては数百万円かかることもあります。食費も含めた滞在費は、派遣先のロータリーが負担します。で、比較的安価に留学ができるということと、ホスト

ファミリーは相手国のロータリアンもしくはロータリアンが認める信頼のおける家庭になりますので、親御さんとしても安心できるというのが特徴です。費用としては往復の航空券やビザ代、海外旅行保険や個人的な小遣いは学生側の負担ですが、大きな支出は相手先のロータリーが負担します。

これまで当クラブからは多くの学生を派遣し、また受け入れていますが、コロナ禍前の2019年、川幡会長年度に笹野瑚央さんを派遣し、Lizette Marie Bishopさんを受け入れてからしばらくは学生の派遣・受け入れはありませんでした。しかし今年度当クラブは、国際ロータリー第5970地区(アイオワ州、アメリカ)派遣のAnnabella Kay Highさんを受け入れ、小砂咲葉さんを交換学生として同地区に派遣予定です。実に7年ぶりの交換プログラムの実施、ということになります。小砂さんを当クラブがスポンサーした経緯ですが、今年度の活動報告書にも記載したとおり、1992年に当クラブスポンサーの元、咲葉さんのお父様をアメリカに、お母様をカナダに交換学生として派遣したことがあり、その縁でと聞き及んでいます。

今年度第2510地区からは計5名の学生を派遣する予定であり、今月25日には地区で派遣学生の壮行会を実施する予定ですが、当クラブでも小砂さんの壮行会を開催できないか、検討しているところです。また、受け入れ学生のホストファミリーも全て確定しているわけではありませんので、会員の皆様には是非ともこの青少年交換プログラムの意義を理解いただき、様々な形でご協力頂ければと思います。

遠田 学 ロータリー財団委員長

こんにちは。今年度のロータリー財団委員長を務めることとなりました、遠田学でございます。私は、2024年9月に歴史と伝統ある札幌東ロータリークラブへ入

持続可能なインパクトを生み出そう

2026-2027 年度 国際ロータリー会長のメッセージ

国際ロータリー会長:オンラインカ・ハキム・ババラ

THE ROTARY CLUB OF SAPPORO-EAST WEEKLY BULLETIN

第2510地区

Rotary

札幌東ロータリークラブ



会し、まだ満2年に満たない会員ではございますが、このたび出倉会長よりお声がけをいただき、このような大役を仰せつかることとなりました。委員会活動の経験はまだ十分とは申せませんが、皆様のお力をお借りしながら精一杯務めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度は、会員の皆様から多大なるご協力をいただき、また梅澤直前会長ならびに前ロータリー財団委員長である村田プログラム委員長のご尽力により、当クラブは「Every Rotarian Every Year Club」の認証を得ることができました。これは、正会員一人当たりの平均寄付額が100米ドル以上という認証基準を満たしたことを意味します。本年度、その功績を引き継ぐ立場となり、あらためて責任の重さを感じております。未熟ではございますが、でき得る限り努力してまいります。

とはいえ、現段階では、私自身の知識も理解もまだ十分とは申せません。出倉会長からご指名をいただき、以降、村田前委員長からアドバイスや資料のご提供をいただき、またRIおよび地区のホームページを確認しながら、財団の理念、活動方針、活動内容について少しずつ学んでいるところです。先週の例会時にも、「ロータリー財団による奨学補助金を申請したい学生がいるのだけれど」とご質問をいただきましたが、その場で正確にお答えできるだけの知識がまだなく、現在きちんとお答えできるよう調べているところです。

ただ、まだ学びの途上ではありますが、今年度ロータリー財団委員長として活動するうえで、ここにお集まりの皆様にぜひお伝えしたいことがあります。それは、今年度もできる限り「Every Rotarian Every Year Club」の認証基準を満たすことを目標にしたいということです。そのために、会員歴の長い方から新会員の皆様まで、それぞれのお立場でロータリー財団の活動目的や財団寄付金の意義をご理解いただけるよう、丁寧にお伝えしてまいりたいと考えております。

もちろん、財団寄付金は皆様の善意によるご協力によって成り立っているものであり、義務や強制による



ものではないことは十分に理解しております。また、2026年7月現在のロータリーレートは1米ドル＝162円で、昨年同月の1米ドル＝145円を10%以上も上回っており、会員の皆様にとって昨年度よりもご負担が大きい状況であることも承知しております。そのうえで、歴史と伝統ある札幌東ロータリークラブの名誉を守り、奉仕活動の基盤を支えていくために、可能な範囲でのご協力をお願い申し上げます。「ロータリー財団寄付強化月間」に行う卓話も含め、秋口から理解促進と寄付推進に向けた取り組みを始めてまいりたいと考えております。また、活動内容が近い米山奨学委員会とも連携を密にし、相互に補完・協力できる体制づくりを早い段階から進めてまいります。こうした取り組みを通じて、少しでも多くの皆様にロータリー財団の活動をご理解いただけるよう努めてまいります。今期一年、どうぞよろしくお願いいたします。

井元誉明 青少年奉仕委員長

本年度、青少年奉仕委員長を務めます井元でございます。どうぞ一年間よろしくお願いいたします。

まず初めに、このような大役を任せていただきましたことに感謝申し上げます。

本年度、出倉会長はクラブの活動方針として「寛容・貢献・青少年」を掲げられました。

私は、この三つの言葉の中でも「青少年」は未来への投資であり、ロータリーが最も大切にしなければならない奉仕の一つだと考えています。子どもたちは、私たちが社会で培ってきた経験や価値観を受け継ぎ、さらに新しい時代を築いていく存在です。一方で、私たちも若い世代と接することで、新しい考え方や行動力、多様な価値観に触れ、多くの学びを得ることが出来ます。その意味で、私は青少年奉仕とは「教える活動」だけではなく、「共に学び、共に成長する活動」であると思っています。今年度も青少年奉仕委員会では、北海高等学校インターアクトクラブとの交流を中心に活動を進めてまいります。

まず、8月6日の例会では、新入部員の皆さんへのバッジ授



与式と、奉仕活動で使用するビブスの贈呈を行います。また、この日は顧問の菊地先生に卓話をお願いしております。先生とロータリーとのつながりや日頃の活動、生徒たちの成長についてお話をいただくことで、インターアクトへの理解をさらに深めていただける場になればと思っております。

続いて、10月22日の例会では、インターアクトクラブの活動報告を予定しております。高校生自身の言葉で活動を発表していただくことで、奉仕活動の成果や成長を会員の皆さまと共有したいと考えています。

11月には、毎年開催しております「ろう者とのフットサル交流会」に参加していただきます。スポーツを通じた交流は、言葉だけでは伝えられないつながりを生みます。障がいの有無に関係なく、お互いを理解し、支え合う経験は、高校生にとっても大変貴重な学びになると考えています。

12月の年末親睦家族会では、インターアクトクラブの皆さんをご招待いたします。ロータリークラブの雰囲気を感じていただくとともに、交流を通じて、人とのつながりの大切さを感じてもらえればと思っております。

そして1月には、西野桜幼稚園で絵本の読み聞かせを行います。この活動では、インターアクトクラブの皆さんに子どもたちと触れ合うだけではなく、職場体験の要素も取り入れながら、一緒に社会奉仕活動を進めていきたいと考えています。

2月4日の例会では、インターアクトクラブの卒業生をお招きし、「インターアクトで学んだことが現在の大学生活でどのように活かされているか」をテーマに卓話をお願いしています。高校時代の経験が、その後の人生にどのようにつながっているのかを聞くことで、私たちロータリアンにとっても、大変意義深い時間になると思います。

最後に5月には、花園学院を訪問し、入居者の皆さんとインターアクトクラブの生徒が交流する機会を設けます。世代を超えた交流の中で、思いやりや相手を尊重する心を育み、社会に貢献する喜びを感じてもらえる活動にしていきたいと考えています。

このように、本年度も年間を通してインターアクトクラブとの交流を軸に、多くの奉仕活動を計画しております。さまざまな行事を行ううえで一番大切なことは、一つひとつの活動を通して、高校生が「奉仕することは楽しい」「誰かの役に立つことはうれしい」と感じ

てくれること。そして、ロータリークラブの会員の皆さまにも、若い世代と交流する中で新しい気づきや元気をいただきたいと考えております。出倉会長が掲げられた「寛容・貢献・青少年」という方針を、青少年奉仕委員会の活動を通じて少しでも形にできるよう、一年間取り組んでまいります。委員会だけでできる活動ではありません。会員の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。一年間どうぞよろしくお願いいたします。

高山和宏 副会長

企業版ふるさと納税のご案内をします。

2018年に胆振東部地震があったのは記憶に新しいところかと思えます。

全国各地、タイ、台湾、から支援金をいただきました。当地

区内に震源地があり、私が地区の社会奉仕委員長を務めていたため3,800万円強の支援金をどのように活用していくか委員会で考えた結果、厚真町に寄付をした関係で今でもつながりが続いております。

今年度も最後の支援金が少し残っているので、胆振東部3町に何か支援ができないかということで、現在の地区社会奉仕委員長である井元さんと一緒に胆振東部3町を訪問した際、厚真町の担当の方から現在困っていることについて話がありました。

浜厚真で行われているサーフィン大会を世界大会レベルの規模にしていきたいということで、サーフィンの連盟からも公認を受けた大会が浜厚真で行われているそうです。しかし、漂流物も非常に多く清掃に困っているということでした。かつてロータリークラブで清掃活動を行ったこともありましたが、毎日のように漂流物が流れてくるので現在でも綺麗にはなっていません。

今年も8月上旬に大会が開かれるので、是非、企業版ふるさと納税で清掃活動に対する支援をしていただけないかという話でした。

そのような取り組みにご興味のある会員は、担当の方にお繋ぎしますのでお声掛けください。

